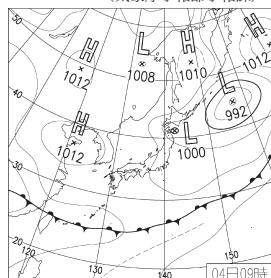


# 日々の天気図

— No. 185

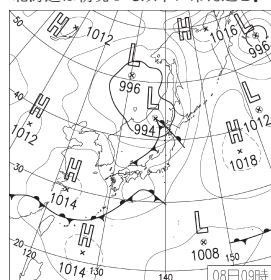
## 2017年6月

- 1～2日、各地で雷雨。床下浸水や落雷による住宅火災など発生。
- 16日、宇都宮など関東の所々で降ひょう。農作物などに被害発生。
- 20～21日、各地で大雨・強風。土砂崩れ・道路冠水・交通障害等発生。
- 西～東日本で月降水量が平年の半分以下の所も。  
(気象庁予報部予報課)



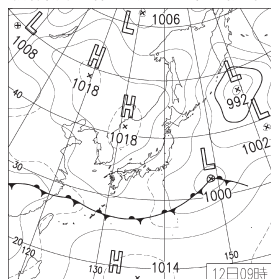
4日(日)北日本で寒い

黄海の高気圧が張り出し西～東日本は概ね晴れ。北日本は寒気の影響で曇りや雨で気温上がらず、最高気温は4月上旬並、平年差-10℃以下の所も。北海道は朝晩5℃以下に冷え込む。



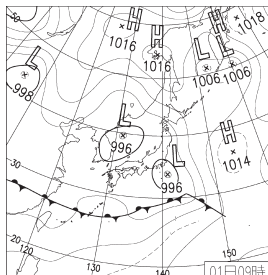
8日(木)梅雨前線が南下

前線・低気圧が接近した北陸～北日本は曇りや雨。北海道で風強く最大瞬間風速北泊27.8m/s。沖繩～西日本や東日本太平洋側は雨が降ったが梅雨前線南下に伴い西から次第に晴れ。



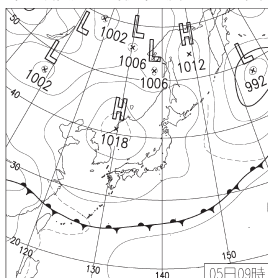
12日(月)低温続く

沖繩・奄美は梅雨前線が停滞し激しい雨。そのほかの地方は、湿った空気により雨の降った所もあるが、次第に高気圧に覆われ概ね晴れ。北日本を中心に最高気温が所々で4月並。



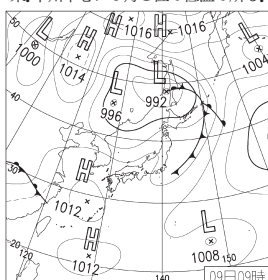
1日(木)西～北日本で雷雨多発

本州付近は気圧の谷で湿った空気が流れ込む。夜は西日本上空に寒気も、大気の状態不安定で各地激しい雨や雷。兵庫県大屋51mm/1hなど6月1位。最大瞬間風速 島根県西郷岬32.9m/s。



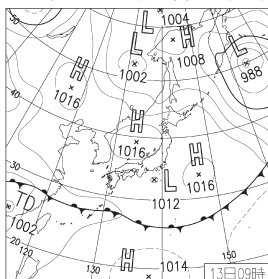
5日(月)20日ぶりに氷点下

沖繩と東北で曇りや雨のほかは高気圧に覆われ概ね晴れ。沖繩を除き最低気温は平年以下。本州中部と北海道の一部は氷点下で全国で5月16日以来。本州中心に6月1位の低温の所も。



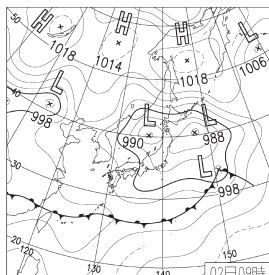
9日(金)北海道でも夏日に

高気圧に覆われ全国的に概ね晴れ。北日本では最高気温が真夏並となり平年より6℃以上高い所も。午後は上空の気圧の谷の影響で関東や北日本の一部で雨や雷雨。長崎県で震度4。



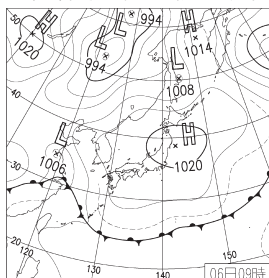
13日(火)北海道で冬日

沖繩～九州南部は曇りや雨。沖繩県久米島58mm/1h。関東は湿った空気の影響で雨。最高気温は4月並。そのほかは高気圧に覆われて晴れ。朝は冷え込む。台風第2号は熱帯低気圧に。



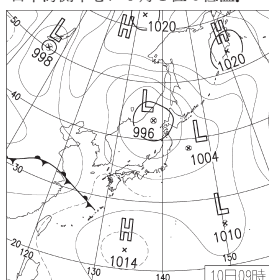
2日(金)関東甲信で突風

沖繩は活発な梅雨前線かかり雨。西日本～東北は上空寒気の影響で雷雨。北海道も所々雨。長野県飯田6月1位の最大瞬間風速27m/s。西～東日本は次第に高気圧に覆われ晴れた所も。



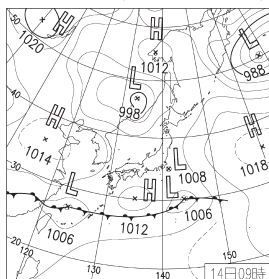
6日(火)九州で梅雨入り発表

西から気圧の谷が近づき夜には西日本は概ね晴れ。近畿～北日本は日中は概ね晴れ。上空の寒気に放射冷却の影響も加わり、最低気温は北日本日本海側中心に6月1位の低温。



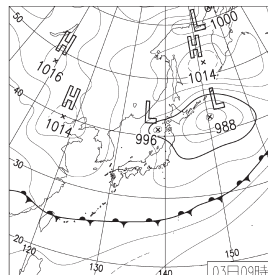
10日(土)沖繩と関東で気温上昇

北陸と北日本は寒気を持った低気圧による雨や雷。栃木県奥日光で6月1位の最大風速15.8m/s。沖繩と西～東日本の太平洋側は概ね晴れて、関東で33地点など全国102地点で真夏日。



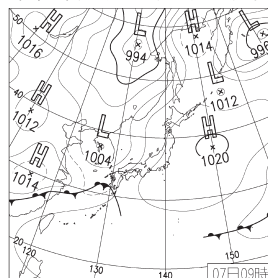
14日(水)南西諸島、前線活動活発

西～北日本は概ね晴れたが関東や北海道の一部で曇りの所も。南西諸島は前線の活動が活発で、沖繩県で日降水量が名護、東とも231.5mm等各地で6月1位。沖繩県北原で55mm/1h。



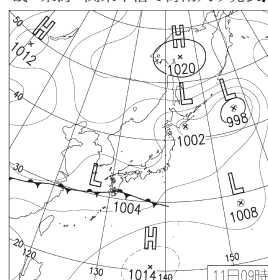
3日(土)北日本は最高気温4月並

北陸～北日本は寒気を持った気圧の谷が通り曇りや雨。沖繩も前線の影響で曇りや雨。西日本～東海・関東は高気圧に覆われカラッとしたり晴れ。放射冷却で最低気温が6月1位の所も。



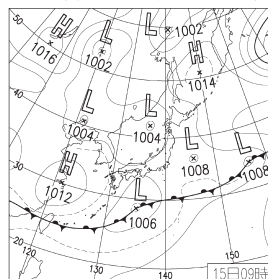
7日(水)梅雨入り発表続

梅雨前線や低気圧の影響により、雨雲が次第に西日本から東日本と北日本へ広がる。沖繩・奄美は高気圧に覆われて概ね晴れ。四国・中国・近畿・東海・関東甲信で梅雨入り発表。



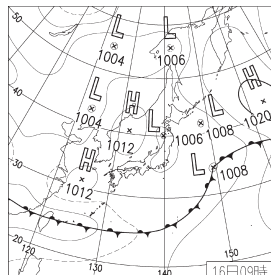
11日(日)南シナ海で台風第2号発生

低気圧や前線の影響で西日本や北海道を中心に曇りや雨。九州南部で激しい雨。東日本～東南北部や沖繩は高気圧に覆われ晴れた所が多い。最低気温は北陸などで6月1位の低温。

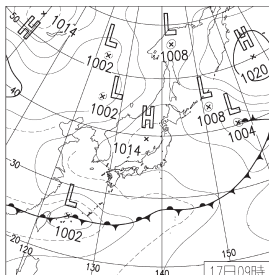


15日(木)前線活動弱まる

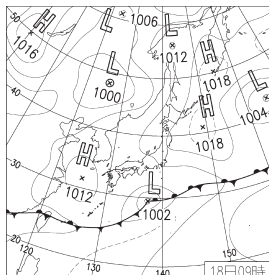
梅雨前線の活動は弱まり南西諸島の雨は小康状態に。西～東日本は高気圧に覆われて概ね晴れ。北日本は日本海を東進する低気圧の影響で雨が強まり雷も。関東の一部でも雷雨。



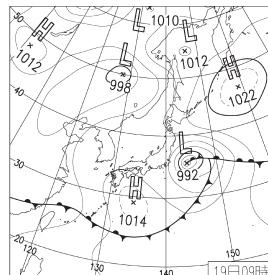
**16日(金)宇都宮でひょう**  
西～東日本は日中は概ね晴れたが、上空に寒気を伴った気圧の谷の通過に伴い関東～北日本で雨や雷雨。宇都宮で径20ミリのひょう。沖縄・奄美も梅雨前線の影響で曇りや雨。



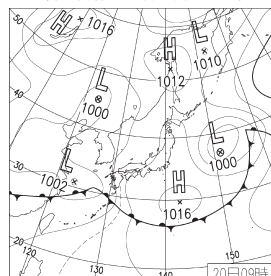
**17日(土)梅雨の中休み続く**  
沖縄・奄美は活発な梅雨前線上に発生した低気圧の影響により雨。沖縄県北大東の42mm/1hは6月1位。そのほかの地方は高気圧に覆われ概ね晴れ。西日本は14日から晴天続く。



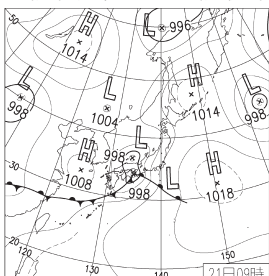
**18日(日)北海道、一部で真夏並**  
沖縄・奄美は曇りや雨。日本の南を北東進する低気圧の影響で近畿～東北南部は曇りで南岸中心に雨。最高気温は5月並。そのほかは概ね晴れて北海道は最高気温が真夏並の所も。



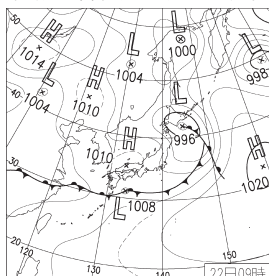
**19日(月)沖縄で前線活発**  
前線近傍の沖縄は大雨。沖縄県東60mm/1h、日降水量は糸数245mm、久米島222mmなど6月1位。西～東日本は高気圧に覆われて晴れ最高気温京都・名古屋34℃など真夏日242地点。



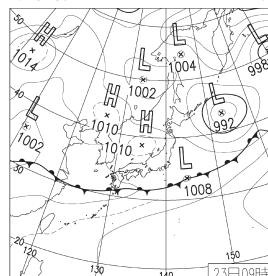
**20日(火)大分県で震度5強**  
前線北上し九州～四国の太平洋岸で雨強まり鹿児島県内之浦55mm/1hの非常に激しい雨。九州南部各地で日降水量200mm超。本州の内陸部中心に気温が上昇し、149地点で真夏日。



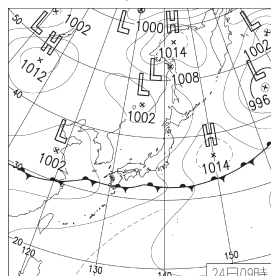
**21日(水)北陸・東北梅雨入り発表**  
低気圧が西～東日本と日本海を東進。和歌山県日置川89.5mm/1h、西川184.5mm/1hとも史上1位。西川の日降水量423.5mmなど南岸で6月1位。風も非常に強く、高知県で突風被害も。



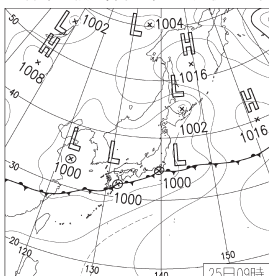
**22日(木)沖縄梅雨明け発表**  
梅雨前線が北上し沖縄は晴れ。九州南部・奄美と四国は雨。鹿児島県上中で72.5mm/1h、尾之間で72mm/1h。北海道は低気圧近傍で雨。そのほかの地方は次第に高気圧に覆われ晴れ。



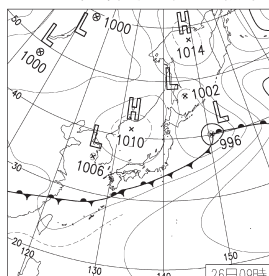
**23日(金)九州南部で大雨**  
梅雨前線が停滞し九州南部で大雨。鹿児島県では尾之間57mm/1h、日降水量は上中186mmなど各地100mm超。中国・四国～北日本は高気圧に覆われ日中概ね晴れ。本州内陸で真夏日。



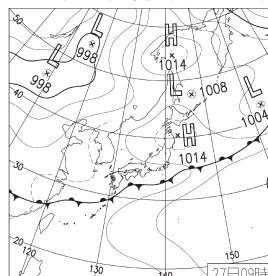
**24日(土)鹿児島県で猛烈な雨**  
南西諸島は晴れ。東日本～東北は日中概ね晴れ。北海道は低気圧の影響で雨や曇り。前線が上がり九州は南部を中心に大雨。西日本も次第に雨。鹿児島県八重山80mm/1hで史上1位。



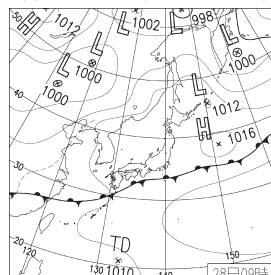
**25日(日)長野県で朝、震度5強**  
震度4も続き午後にも震度4。前線や気圧の谷の影響で沖縄を除く広範囲で雨。西～東日本の太平洋側は各地で局地的な大雨。熊本県田浦で6月1位の73.5mm/1hの非常に激しい雨。



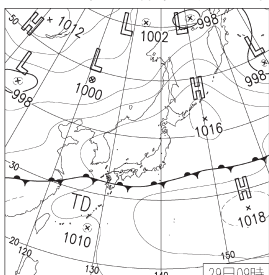
**26日(月)南北の気温差大**  
東日本の内陸では晴れて真夏日に。一方北海道では上空の寒気の影響で最高気温が15℃以下の所も。遠軽の10.9℃は4月中旬並。九州～東日本の南岸は、梅雨前線の影響で曇りや雨。



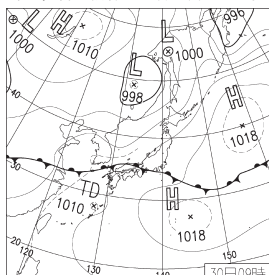
**27日(火)北日本冷え込む**  
沖縄と北陸～北日本は高気圧に覆われて概ね晴れ。そのほかは梅雨前線の影響で曇りや雨。鹿児島県尾之間81mm/1hの猛烈な雨。北日本では冷え込み、最低気温が5月中旬並の所も。



**28日(水)梅雨前線、南岸に停滞**  
梅雨前線の南の沖縄は晴れて暑い。西日本や東海・関東甲信は曇りや雨で局地的に激しい雨も。北陸～北日本は北海道の一部で雨が降ったが次第に高気圧に覆われ晴れた所多い。



**29日(木)奄美の梅雨明け発表**  
沖縄～西日本は日中晴れた所もあるが熱帯低気圧や梅雨前線の影響で激しい雨や雷。福岡県で竜巻被害。長崎県壱岐の芦辺120mm/1hで史上1位。3時間で200mm超の記録的な大雨。



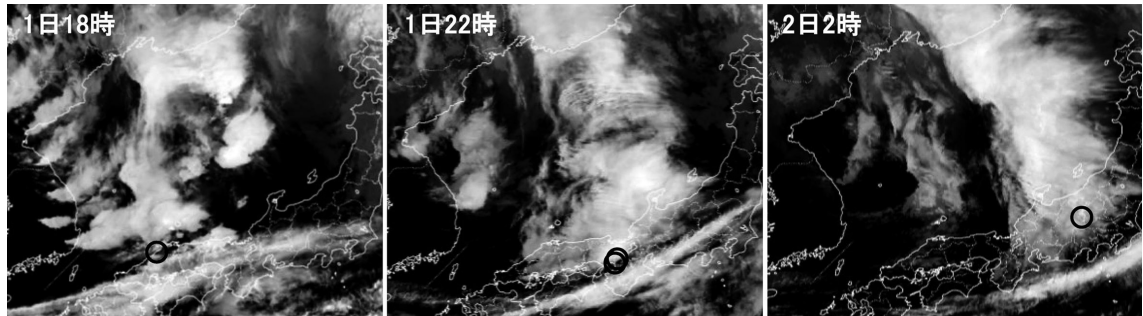
**30日(金)西日本の大雨続く**  
湿った空気が入って梅雨前線の活動が活発化し、雨が東日本へと広がる。熊本県人吉56.5mm/1hで6月1位。広島53.5mm/1hなど、西日本～東海にかけて各地で非常に激しい雨や雷。





## 今月のひまわり画像—2017年6月

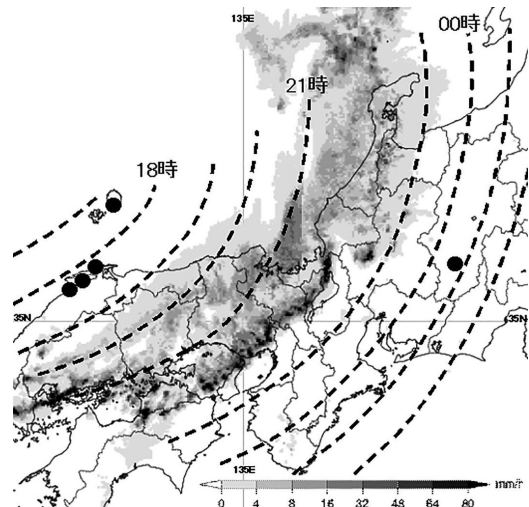
### 広範囲に突風被害をもたらした対流雲



第1図 2017年6月1日18時～2日2時（日本時間）の4時間毎の本州付近における赤外画像（図中の○印については、左図は島根県大田市、中央図の北は大阪府茨木市、南は大阪市、右図は長野県軽井沢町を示す）。

第1図は2017年6月1日18時～2日2時（日本時間）の4時間毎の本州付近における赤外画像である。1～2日、寒冷渦が中国東北区から南下し、黄海のトラフが深まりながら日本海に進んだ。1日、日本海では500 hPa で $-15^{\circ}\text{C}$ 以下の強い寒気が入り込み、対流雲が急速に発生・発達した。対流雲の雲頂高度を $T_{\text{BB}}$ （等価黒体温度）で見ると、1日19時半頃に山陰沖東部で最も低く、約 $-64^{\circ}\text{C}$ （高度約14 kmに相当）であった。可視画像（略）によると、日本海西部の最下層で発達した対流雲から生じた冷気外流出と一般場の南西の風が収束して、比較的スケールの大きいCbライン（対流雲列）が形成され、ややアーク状を呈しながら南下している状況を確認できた。また、レーダー観測では、同海域でライン状のエコーが組織化されており、Cbラインはこの強い降水域に対応していた。アメダスの1分値などでは、2009年7月15日の西日本における突風事例（木下 2010）と同様に、ガストフロントの通過時に特有な風の急激な強まり、気温の急降下、気圧の急上昇が見られた。

本事例で風が最も強かったのは島根県隠岐空港で、1日18時20分に西の風の最大瞬間風速が $32.9\text{ m/s}$ に達していた。また、1940年からの長い統計がある長野県飯田特別地域気象観測所で2日1時08分と同 $27.0\text{ m/s}$ の西北西の風が観測されるなど、6月の極値が更新された地点が多かった。上述のCbラインは地形の影響を受けながらも東日本まで進み、1日18時頃に島根県大田市、22時頃に大阪府茨木市、大阪市、2日



第2図 1日22時の西日本付近におけるレーダー降水強度（点線は1日17時～2日2時（1日22時は省略）の1時間毎のCbラインの位置、●印は最大瞬間風速 $25\text{ m/s}$ 以上が観測された地点を示す）。

1時30分頃に長野県軽井沢町などで突風の発生が確認され、住家の屋根の飛散などの被害が出た（第2図）。

（気象庁予報部予報課 木下 仁）

#### 参考文献

木下 仁, 2010: 2009年7月15日西日本に突風などをもたらしたガストフロントについて。2010年度秋季大会講演予稿集, P120.